

韓国環境部プレスリリース 2020 年 1 月 29 日付

江原道野生いのししから ASF ウイルス検出（野生いのしし 119-124 例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1224560&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は江原道（カンウォンド）華川郡（ファチョングン）華川邑（ファチョンウプ）豊山里（プンサンリ）広域フェンスの中で発見された野生いのしし死体 6 個体から ASF ウイルスが検出されたと 1 月 29 日明らかにした。

死体は全 1 月 27 日豊山里の山を捜索した環境部捜索チームによって発見された。華川郡（ファチョングン）は野生いのしし ASF 標準行動指針により試料を採取して現場消毒と共に死体を処理した。

国立環境科学院は 1 月 29 日死体から ASF ウイルスを検出したことを関係機関に通知した。これで華川郡（ファチョングン）では 25 件の野生いのしし ASF 陽性事例となり、全国的には 124 件になった。

国立環境科学院生物安全研究チーム長は"今回の死体は全て設置中の 2 次フェンスの中で発見された。最近の陽性個体発見地点と近接している。この地域では感染した死体がさらに発見される可能性が高いため、周辺捜索を強化して、早急にフェンス設置を完了する予定だ"と話した。

以上